

幼児教育長期派遣通信 1学期号

発行 令和3年8月18日

竹原市立中通小学校 板垣 祐美（派遣園：広島大学附属幼稚園）

本年度、「幼児教育長期派遣研修」として、広島大学附属幼稚園で研修をしています。

本研修は、幼児教育の実践を体験することによって、幼児教育への理解を深め、円滑な幼保小接続に向けて、指導方法やカリキュラム構成等色々な視点から改善を図っていくことを目的としています。ここでは、本研修でのこれまでの学びを紹介します。

1 1学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・園児観察
- ・園内環境の整備と安全点検
- ・研究日に参加（援助，ルーブリック評価等）
- ・行事に参加（誕生会，グローバルデイ（英語），親子遠足，避難訓練，タマネギ・ジャガイモ収穫，森の日，田植え，七夕の集い，カレーパーティ，川遊び）
- ・研修（長期派遣研修報告会，接続に係る研修会①②，幼児教育理解に係る研修会②）

(2) 園外研修

- ・所属校のスタートカリキュラムの授業参観
- ・幼児教育理解に係る研修会①
- ・令和3年度竹原市発達障害児巡回支援事業に同行

2 研修を通して

① 年長組の1日から，幼児教育について紹介します

本県が目指す乳幼児の姿

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」

広島大学附属幼稚園そら組の1日

9:00~	登園 身支度後自由遊び 当番活動	自由保育
10:30頃	片付け開始 お手洗い・水分補給	
11:00頃	集い 自由遊びのふり返りや歌，手遊び，製作等	設定保育
12:00頃	昼食（弁当） 昼食後自由遊び	
13:20頃	片付け・帰りの支度	
13:40頃	集い 歌，手遊び，絵本等	
14:00	降園	

「遊び」は探究の宝庫。「遊び」そのものが学びです。この時期に育った「探究の芽」は、生涯にわたって主体的に学び続ける力につながります。

子供たちが主体的に遊べるように、一人一人の発達の特徴を理解し、声かけや環境構成などの援助を行っていきます。

集いで、当番は、飼育活動での気づきを報告します。また、自由遊びのふり返りを行うことで、子供たちに達成感や自己肯定感を育てています。集団で時間を共有することで、「みんなで一緒にがんばろう」の意識が育っています。

帰りの集いでは、絵本が読まれます。季節や行事に関わるものも多く取り上げられ、園で行われる活動やイベントへの動機づけになることもあります。また、次の日の当番をみんなで確認することで、子供たちは見通しをもって当番活動に関わっています。

遊びを通して、5つの力を総合的に育てていきます

感じる・
気付く力

うごく力

考える力

やりぬく力

人と
かかわる力

乳幼児期に5つの力を育むことは、小学校教育以降の基盤となっていきます

②5つの力の育ちを具体的に紹介します

主に発揮されたと
思われる力

事例1



山で拾った長い木を、遊びに使っていい長さ(腕以下という園のルール)にするため、のこぎりで切断しようとしています。なかなか木が切れず腕が疲れてきます。「木とのこぎりの戦いだ。のこぎり、がんばれ。」と言い自身を鼓舞しながら、あきらめずに切り進めること30分。やっと切ることができました。この後、うれしそうに木を高々と掲げました。

うごく力

やりぬく力

主体的に遊びを展開している姿を受け止め、遊びの様子を見守ります。(援助)
道具類の場所、使い方等安全に関わることは指導し、切る時に安定するようにのこぎり台を置く等、環境を整えています。(環境構成)



教師の援助

事例2



ビオトープで捕まえたカエルの家を作りたいと考え、図鑑で調べたことを実行に移しています。水槽に入れる土は、カエルにとって何だったら居心地がいいかいろいろと考え、ビオトープから掘ることにしました。しかし、土が緩くて難しく、近くの田んぼの土を使うことになりました。えさ、隠れ家となる筒、土の上に敷く苔等、園児が自分で考えて集めました。

感じる・
気付く力

考える力

やりぬく力

本人の思いを実現するには大きな水槽がいると考え、準備をします。(援助)
虫に興味がある園児が多いため、必要数の虫かごや網を用意し、置き場も出入口にすることで、すぐに遊びに移れる環境を整えています。(環境構成)



教師の援助

事例3



園の行事「七夕の集い」に使う竹は、そら組が近くの竹林に取りに行きます。今年は計4本。「竹を取りに行くぞー!」「オー!」と声を合わせ、気合が入ります。力を合わせて竹を運び、各組に届けに行きました。園の先生方や年下のお友達から、「ありがとうございました。」と言われると、自然と笑顔が増え、「どういたしまして。」と口々に答えていました。

やりぬく力

人と
かかわる力

「そら組さん、園のためにお願い。」とやる気を高めてから活動に入ります。また、園の先生、子どもたちみんなで、そら組のがんばりに感謝し、達成感につなげます。(援助)
竹はすぐに飾り付けられ、七夕の雰囲気園全体で感じられるようにします。(環境構成)



教師の援助

事例4



そら組は、烏骨鶏とウサギ小屋の世話を日替わり当番で行います。掃除で気付いたことは、集いで当番が報告します。「(烏骨鶏が産んだ)卵を食べるか、食べないか。」は、みんなで話し合って決められます。「食べたい。」「もう一度、小屋に戻して様子を見る。」「卵が冷たいなら、もう温めていないから食べる。」などいろいろな意見が出ます。

感じる・
気付く力

考える力

人と
かかわる力

話し合いで出た意見は受け止め、可能な範囲で実行し、次の話し合いに生かします。(援助)
自分たちで協力して当番活動が行えるように、掲示物で手順を示す視覚的支援を行っています。園で軍手やマスク、長靴等を用意し、安全面にも考慮しています。(環境構成)



教師の援助

3 まとめ

『遊び』そのものが学びの意味を毎日実感しながら研修しています。毎日の遊びの中に、小学校の教科で学習する要素や目指す資質・能力に関わる要素等、様々な要素が含まれています。この子供たちの豊かな学びを、小学校にどのようにつなげていくか、今後も研修に励んで参ります。

〈乳幼児教育支援センターより〉

広島県が乳幼児期に育みたいと考える5つの力「感じる・気付く力」、「うごく力」、「考える力」、「やりぬく力」、「人とかかわる力」は、遊びを通して総合的に育つものであり、個別に取り出して身に付けさせるものではありません。子供の持っている力をさらに伸ばし、引き出していくためには、子供の周りにいる大人が、その子の個性を大切に、発達に合わせて5つの力を育んでいくことが重要です。